

Title	市政論研究の發展と其の文献について (中)
Sub Title	
Author	島田, 久吉 (Shimada, Hisakichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1939
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.18, No.3 (1939. 12) ,p.167- 175
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19391215-0167">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19391215-0167</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 資料

### 市政論研究の發展と其の文献について（中）

高田久吉

#### 六

千九百年代に入るに及んで、市政の研究が急速の發展を見るに至つたことは周知のことである。しかしして之の事情は前世紀の最後の四半世紀に於ける都市問題の著しい生起によるものと云へやう。實にペンシルヴァニア大學教授 L. S. Rowe 氏の言の如く、アメリカ政治制度の史家は十九世紀の最後の二十五年を目して、市政實驗の時期と指稱することが出来るのである。（同教授 Problems of City Government, Introduction 参照）

しかのみならず、之の期間は亦、各州に於ける市制の研究ならびに各都市個々の市史編纂の旺盛に行はれた時であつた。而して之等の研究に最も貢獻したのはジョン・ホプキンス大學であらう。即ち這般の研究で同大學の政治學・史學研究に採録上梓せられたものは頗る多い。左に掲げるは其の主なるものである。

市政論研究の發展と其の文献について

(662)

- Bemis, E. W. Local Government in Michigan and North West (1882)  
Johnston, A. The Genesis of a New England State (1882)  
Shaw, A. Local Government in Illinois (1882)  
Macy, J. Institutional Beginnings in a Western State (1883)  
Porter, J. A. City of Washington (1884)  
Wilhelm, L. W. Local Institutions of Maryland (1884)  
Ingle, E. Virginia Local Institutions (1884)  
Livermore, C. H. The Town and City Government of New Haven (1885)  
Elding, I. Dutch Village Communities on the Hudson (1885)  
Foster, W. E. Town Government in Rhode Island (1885)  
Holcomb, W. P. Pennsylvania Boroughs (1885)  
Adams, H. B. Village Communities of Cape Ann and Salem (1885)  
Bugbee, J. M. City Government of Boston (1887)  
Andrews, C. M. River Towns of Connecticut (1889)  
Howe, W. W. Municipal History of New Orleans (1889)  
Moses, B. Establishment of Municipal Government in San Francisco (1889)

類、右のほか千八百年代に發表せられたものは

- Snow, M. S. City Government of St. Louis (1887)
- Chaplin, J. W. Remarks on the Government of Municipalities suggested by experience (1893)
- Moses, J. History of Chicago (1895)
- Thomas, T. P. City Government in Baltimore (1896)
- Lamb, M. J. History of the City of New York (1896)
- Wilcox, D. F. Municipal Government in Michigan and Ohio (1896)
- Powell, L. Historic Towns of New England (1898)
- Sparting, S. E. Municipal History of Chicago (1898)
- Nuckols, R. R. History of Government of City of Richmond (1899)
- 等がある。

中

アルバート・シヨウ、フランク・ジ・ソソン・グッドナウ、ドルマン・ブリチマン・イートン三氏について市政論史上に忘るべからざる名前はエル・エス・ロー博士、エッチ・イ・デミング氏、ディ・エフ・ウィルコックス博士、シィ・アル・ウッドラフ氏等である。

L. S. Rowe 博士はペンシルヴァニア大學に於て政治學の講座を擔任せられてゐたが、其の *Problems of City Government* (1908) は都市發展の原理を分析せんとする目的を以て書かれたものであつて、その内容は現在の市政概論の含む凡ての問題にわたつてゐる。しかし乍ら、どちらかと云へば純然たる市政の研究と云ふよりも社會學的

(543)

關心の多分に含まれてゐる著作である。なほ同氏が千八百九十七年、ルイズヴィルに開催せられた全國市政聯盟 (National Municipal League) の年次大會に於て、市政改革案起草の特別委員會の一員であつた事は已に一言した。同じく同委員會に紐育市を代表して参加せる Horace E. Deming 氏の *The Government of American Cities* (1909) は市政論に於ける名著の一と見らるゝものであつて、本書は同氏の云はるゝ通り、アメリカに於ける市政の腐敗はデモクラシー原理の欠陥を實證するものと見る可きに非ずして、其の適用に當つての失敗に歸すべきものとする立場から著はされたものである。本論は二百頁に過ぎない短いものであるが、頗る示唆に富んだものであり、單に市政のみならず、一般政治の原則に關する研究としても含著の多い著作である。附録として、全國市政聯盟の市政改革要綱を載せてゐる。

Delos. F. Wilcox 氏は曾て紐育市長 Michel 氏の下に水道・瓦斯・電氣委員會の委員長として活動したほか實際の市政に貢献すること頗る多く亦市政の研究家としても練達な學者として知られてゐる。同氏の著書 *Great Cities in America* (1910) は千九百〇七年、ドイツに於て主要なる國家の市政に就いての論文を輯めて *Verfassung und Verwaltungsorganisation der Städte* の題下に *Schriften des Vereins für Sozialpolitik* 中に出版せられたる寄稿論文を特に米國の讀者の爲に書直して發表したものである。本書は首府ワシントンを驛めとして、ニューヨーク、シカゴ、フィラデルフィア、セント・ルイス、ボストンの六大都市の市政狀態を各々別個に研究したものであるが、當時に於ける市政の墮落を率直に暴露し以て愛市心の奮起を促さんとする意圖を藏したものである。之の點は特にフィラデルフィアについて著しい。之のことはウイルクス氏の著作に限らず、すべて同時代の著作は皆な市政改革達成の希望をモチーフとして發表せられたのであつた。市政論は決して研究の爲の研究より生まれたのではない。

實に市政改革家の熱情より生れたのである。同氏には本著作のほか The American City (1904) Municipal Francis (1910) 及び市營電車その他、各種の公益事業に關する大小數多の研究がある。

Clinton Rogers Woodruff 氏は已に述べた様に全國市政聯盟の書記長であり、同聯盟の機關雜誌 National Municipal Review の主筆を兼ね全國市政聯盟叢書 National Municipal League Series の編輯を主宰してゐた市政研究の大先達であり、同氏編纂の都市委員會政治論 (City Government by Commission) (1911) は Tolpin 氏の都市支配人論 (The City Manager) (1915) とならんで同叢書中の双璧である。また同氏が前述の市政改革案起草委員會の委員であつたことは云ふ迄もなし。因みに同氏編纂の新市政要綱 A New Municipal Program (1919) は全國市政聯盟執行委員會議長 M. N. Baker 氏、同聯盟副總裁にして Short Ballot Principles の著者 Richard S. Childs 氏、千九百十年より同十五年迄、同聯盟總裁の地位にあつた W. D. Foulke 氏等の實際家、及びハーヴァート大學總長にして米國政治學會の泰斗 Lawrence Lowell 氏及びメサウスターン・リザーヴ大學の政治學教授 A. R. Hatton テキサス大學政治學教授にして Applied City Government や Municipal Functions 等の著書ある H. G. James 氏ならびに William Bennett Munro 教授、John A. Fairlie 教授の寄稿論文を集録してゐる。しかして之の最後に名を掲げたマンロー、フェアリー兩教授こそ實に市政論の學的完成者であることは何人も異議のない處であらう。實を云へば兩教授以前に於ては市政論は純粹の學究的對象と云ふよりも寧ろ實際運動の理論であつたのである。之の意味に於て兩教授の著書は市政論史に劃期的な存在を主張し得るものである。

## 八

シンガン大學教授 John A. Fairlie 博士の Municipal Administration (1901) は純然たる學の見地より著はされ市政論研究の發展を其の文獻につらふ

たる市政論の最初の文獻である。このことは同教授が其の序文に於て自ら次の如く云はれてゐるに徴しても知れやう。

Much has been written on various aspects and problems of municipal administration, and some brief general outlines have also appeared; but nothing has thus far been published which can claim to be more than a partial or an elementary treatment, as indeed the authors would be the first to admit. This stage of fragmentary writing has been a necessary and an important one in developing the discussion and literary treatment of a new subject of large and growing significance. It would seem, however, that the time has now come for a more comprehensive and more systematic treatise, and it is as an attempt in this direction that the writer makes bold to present this work.

本書は四編に分れ、第一編は市政史の研究に當て、エヂプト、ギリシヤの最古の都市より中世都市に及び、次いで十五世紀より十八世紀に亙る歐洲大陸の諸都市を回顧し、轉じて英國の自治體史の考察に移り、更に合衆國に於ける市政發達の概觀し、猶、革命以後に於ける佛國市政史と十九世紀に於ける獨逸市政史を紹介せるものであり、一般市政史としては、最も簡明にして要領を得たものと言ふべく、市政發達史の入門書として、讀者に推奨し得るものである。

第二編は市政活動の題下に五章を設け、公共衛生及び保安、慈善事業並に社會事業、教育施設、都市改良事業、及び水道、電燈、交通等の市營事業全般に亙つて、理論的、具體的、兩方面から親切なる解説を加へてゐる。

第三編は都市財政を主題とし、市費、借款、歳出入、財務行政を考察し、最後の第四編は市政組織論として、市

會、市吏員、市長の三章と市政組織に關する諸提案の検討に當てゐる。かゝる市政概論の體裁としては、第一編の次ぎに第四編を配し、次いで第二編、最後に財政編を置く方が適當であり、且つ現今に於て最も普通の様式であると思はれるが、併し乍ら此の體裁の不備は毫も本書の價値を減ずるものではない。

フェアリー教授の市政論に對する貢獻は、常に本著作のみならず、夙に千八百九十八年、*Municipal Affairs* 誌十二月號に *Municipal Functions* に關するモノグラフを發表せられてより、*Political Science Quarterly* そのほかに各程の研究を逐次發表せられ、米國市政學界に不動の地位を占めてゐるのである。ついでながら同教授が單に市政の研究のみならず、一般政治學に關する研究に於ても米國一流の學者であることを附け加へて置かう。

W. B. Munro 教授の市政學界に於ける令名は敢へて贅言するまでもない。教授の本題目に關する主要なる著作としては左に其の書目を數へる事が出来る。

*The Government of European Cities* (1909)

*The Government of American Cities* (1912)

*Municipal Government and Administration* (1923)

*Municipal Administration* (1934)

『歐洲市政論』は英、佛、獨、三國の市政研究であつて、附録として伊太利市政に關する簡單なる紹介がある。恐らくは、アルベート・シ・ウ氏の『英國に於ける市政』、『ヨーロッパ大陸に於ける市政』以後、今日に至るまで發表せられたる研究中、白眉を以て目すべきものであらう。本書は千九百〇九年に上梓せられたものであるが、其の後、ヨーロッパ市政に賣らされた大變改に鑑み、千九百二十七年、大訂正を加へて補筆刊行せられたものである。もし

教授がナチ政權以後の獨逸市政、フアシスト伊太利の市政に關して、教授一流の透徹犀利なる検討を加へ以て改訂の勞を重ねらるゝならば學會を裨益すること蓋し甚大であらう。猶、本書は巻尾に周到なる参考書目を掲げて讀者を便すること少くない。

『歐洲市政論』の姉妹篇をなす『米國市政論』は千九百二十二年に上梓せられたものであるが、數版を重ねたる後、その第四版(千九百二十六年)は全卷に亙つて改訂せられ、又、増補せられてゐる。本書は主として米國市政の研究を目的とすと雖も同時に市政一般に亙る原理を究明したものと見ることが出來、市政概論の教科書としても實に立派なものである。併し乍ら、嚴密に云つて市政概論の完成は同教授の『市政及市行政』二卷に肇ると云ふべきであらう。洵に本書こそは L. D. Upton 氏の言の如く(Practice of Municipal Administration, p. X) 市政概論に於ける、ハイオニア・テキストである。教授は city government と city administration とを區別し、前者の研究に上卷を、後者のそれに下卷を當てゐる。上卷は先づ都市發達の沿革を論ずるに初まり、市政の法的基礎、市政に於ける人民の參與の總括的題目下に法律的ならびに政治的諸問題を悉く取り上げ、最後に市政組織として、市會、市長、市委員會、市支配人制の順序に解説を加へ都制の問題に至る。下卷は先づ行政機構の研究に初まり、都市計畫、公共事業、保安、衛生並びに社會事業、公益企業の順序に都市行政各部門につき詳細なる説明を與へ都市財政を以て卷を終る。兩卷併せて堂々千頁に及ぶ大著であり、内容、體裁ともに市政概論のスタンダード・ワークと云ふべし。今後いかなる市政概論が出てても恐らく本書の規定せる線外に脱することは不可能であらうと思はれる。猶、教授がフェアリー教授と等しく米國政治學界の耆宿の一人であることは斷わる迄もない。

以上、兩教授の著書のほか、市政概論或ひは之に近きものを求むれば、大體、次ぎの如きものが挙げられる。

- C. A. Beard, American City Government (1912)
- C. C. Maxey, Outlines of Municipal Government (1924)
- " " Readings in Municipal Government (1924)
- " " Urban Democracy (1929)
- W. Anderson, American City Government (1925)
- J. Wright, Select Readings in Municipal Problems. (1925)
- W. P. Capes, The Modern City and its Government (1922)
- T. H. Reed, Municipal Government in United States (1926)
- L. D. Upson, Practice of Municipal Administration (1926)
- " " The Growth of a City Government (1931)
- A. F. Macdonald, American City Government and Administration (1929)
- E. S. Griffith, The Modern Development of City Government (1927)
- " " Current Municipal Problems (1933)
- C. M. Kneier, City Government in the United States (1934)
- K. Colgrove, American Citizens and their Government (1921)
- F. Kimball, State and Municipal Government in U. S. (1922)

(193)

(以下省略)